

ワイン用ブドウ栽培 (1)；栽培規模の現状と将来計画

畑数と作付面積と苗木本数、及び収量の推移；2019~2026年

		2019	2020	2021	2022	2023	2024計画	2025計画	2026計画
畑の数		2	2	3	3	3	3	3	3
作付面積 (m2)		610	1,495	1,830	2,095	2,325	2,720	2,870	3,100
苗木本数	定植数	122	201	97	97	50	79	30	46
	白ワイン用	43	88	123	164	196	261	281	310
	赤ワイン用	79	211	243	255	269	283	293	310
	合計	122	299	366	419	465	544	574	620
収穫量 (kg)	白ワイン用				11	26	98	196	548
	赤ワイン用				50	112	153	269	594
	合計				61	138	251	465	1142

収量計画の係数	苗木1本当りの結果枝数 (本/樹)	10	10	10	10	15
	結果枝1本当りの房数 (房/結果枝)	1	1	1	1	1
	1と房当りの重量 (g/房)	200	200	200	200	200
	全体の結果比率 (%)	30%	30%	30%	50%	70%

計画；2026年には、佐須の三畑の敷地を活用して、作付け面積で30a、苗木本数600本、ブドウ収穫量2,000kgを目指したい。

ワイン用ブドウ栽培 (2) ; 品種の選定の現状と課題

品種の選定のファクター：

- 1) 味覚；口に含んで美味しい
- 2) 糖度が高く、酸度が減らない
- 3) 病気が少なく、栽培が容易
- 4) たくさん実って収量が多い

白ワイン用品種：

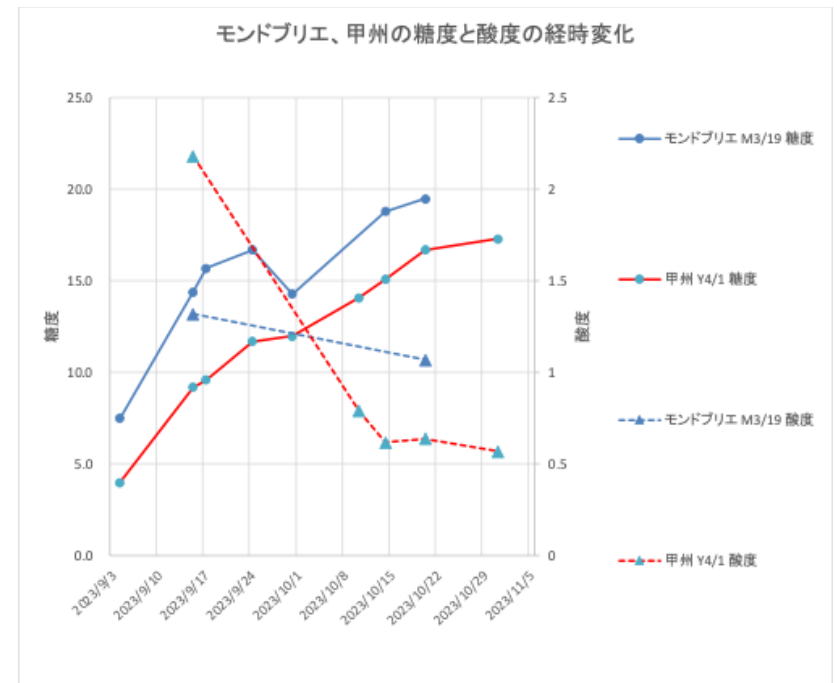
- 1) モンドブリエ；多くの関係者が美味しさを実感
- 2) モンドブリエ；高い糖度と減らない酸度
- 3) 甲州は比較的に、病気に強く、栽培も楽、

赤ワイン用品種：

- 1) アルモノワールは美味しい印象
- 2) 2023年は、獣害・病気のため適期を待たずに収穫
- 3) マスカットベリーA・ヤマソービニオン・富士の夢は病気に強い、清見・富士の夢は成長力が旺盛で栽培管理が大変
- 4) 富士の夢は豊産

課題：

- 1) 収穫期に入る前から糖酸度測定を励行しデータを蓄積する
- 2) 味覚と栽培の手間の定性面と、糖酸度の定量面の評価を繋げて品種の選定を進める



ワイン用ブドウ栽培 (3) ; 健康なブドウを育てる

健康なブドウを程よく熟した時期に収穫するために：

- 1) 土壌改善；冬に炭・燻炭などの炭化物、堆肥、カキ殻を散布し、土壌を改善する
- 2) 遅霜対策を講じる；短梢と長梢剪定併用、遅霜対策品の試用
- 3) 病気の防除；防除歴を参照しながら農薬散布の計画を立て、毎回十分に散布する。
- 4) 獣・虫害対策：サル・ハクビシン・スズメバチ・コガネムシの害から守る
 - ✓ サル対策として効果的な電気柵を設置
 - ✓ ハクビシン；地表から10と20cmの高さに電気線を外側に設置
 - ✓ スズメバチ；ブドウ畑の周辺に、2Lペットボトルを使ったスズメバチトラップを、収穫時期の1ヶ月前から設置
 - ✓ コガネムシ；毎年発生している。農薬で駆除するも、毎年時期が異なるので、始める/終わる時期の判断が重要（農薬による花ぶるいにも注意）
- 5) 8月中旬以降7日置きに糖酸度測定を実施し、収穫の適切な時期を見極める

2025年の重点活動は土壌改良！



ワイン用ブドウ栽培 (4) ; ブドウの四季と栽培の作業

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
四季	春			夏			秋			冬		
ブドウの成長 サイクル	発芽・展葉			果実肥大・成熟						落葉		
				開花								
作業・ 栽培管理	苗木定植			芽かき・誘引・摘心・摘房			収穫					
	遅霜対策		草刈り									
	○ ○ ○ ○ ○ ○											
	農薬散布											
										剪定・誘引		
										畑の整備・支柱追加設置		
										土壌改良		○

皆さん、
時間のあるときに、いつでもご参加ください！

ブドウ畑の四季；秋



ブドウ畑の四季；冬



ブドウ畑の四季；春

